

一般社団法人 日本計算工学会 2016 年度定時社員総会

総 会 議 事 次 第

第 I 部

■議 事

- 2015 年度 事業報告
- 2015 年度 決算報告
- 2015 年度 監査報告
- 2016・2017 年度 役員選任の件(案)
- 2016 年度 事業計画(案)
- 2016 年度 事業予算(案)

■資 料

- (1) 総会議事次第
- (2) 第 1 号議案 2015 年度 事業報告書
- (3) 第 2 号議案 2015 年度 決算報告書
- (4) 第 3 号議案 2015 年度 監査報告書
- (5) 第 4 号議案 2016・2017 年度 役員選任の件(案)
- (6) 第 5 号議案 2016 年度 事業計画(案)
- (7) 第 6 号議案 2016 年度 事業予算(案)

第 II 部

- 表 彰 式 2015 年度 学会賞・フェロー・名誉会員章 授賞授与

2016 年 5 月 27 日(金) 14:00 より

東京大学 武田先端知ビル 5F 武田ホール

【第 1 号議案】

2015 年度

事業報告書

自 2015 年 4 月 1 日

至 2016 年 3 月 31 日

2015年度事業報告書案

1. 通常総会の開催

2015年度通常総会を、2015年5月22日に、ミューザ川崎シンフォニーホール市民交流室で開催した。

また、総会記念シンポジウム「計算不連続性体力学の現在・過去・未来」と題して、法政大学竹内則雄氏に基調講演をいただいた。

2. 理事会の開催

2015年度の理事会は、2015年7月9日、9月7日、11月30日、2016年1月22日、3月30日、5月17日の6回開催した。

日本計算工学会倫理綱領を3月30日に制定した。

3. 表彰

博士論文賞を新設した。

表彰委員会にて審査・選考し、今年度の授賞者を理事会にて決定した。

計算工学大賞

該当なし

功績賞

檜山 和男 氏	中央大学
山村 和人 氏	新日鐵住金(株)

川井メダル

渡邊 浩志 氏	エムエスシーソフトウェア(株)
---------	-----------------

庄子メダル

秋葉 博 氏	東京大学
--------	------

技術賞

「電磁界解析ソフトウェア『JMAG』の開発と提供による産業分野への貢献」 山田 隆 氏

「均質化法に基づくマルチスケール解析ソフト『Multiscale.Sim®』の開発」 山本 晃司 氏

論文賞

・「弾塑性複合材料のトポロジー最適化における解析的感度の精度検証」 加藤 準治 氏、高瀬 慎介 氏、寺田 賢二郎 氏、京谷 孝史 氏

・「複雑ネットワーク科学の観点からの分散型電源の最適配置に関する研究」 白山 晋 氏

論文奨励賞

・出川 智啓 氏 「漸化式による Vortex-in-Cell 法の渦要素-格子補間の高速化とその誤差評価」

・山本 剛大 氏 「板厚変化を考慮したシェル要素の開発」

博士論文賞

・遊佐 泰紀 氏 「分離型連成解法による大規模非線形破壊力学シミュレーションの効率化」

(第1号議案)

4. 計算工学講演会関係

第20回計算工学講演会を、2015年6月8日より6月10日まで、つくば国際会議場において開催した。32件のOSに対して330件の一般講演があり、これらの講演原稿を収録したCD-ROM版計算工学講演会論文集Vol.20を発刊した。講演原稿だけでなく、ビデオ・アニメーションも添付されている。

日本計算工学会設立二十周年記念式典、René de Borst 教授（英国グラスゴー大学）による特別講演、ならびにシンポジウム（「地域密着型CAEの取り組みー公設試のCAE活用最新動向ー」）、6件のランチョンセミナー、特別企画「学会主導型産官学連携博士課程学生増進プログラムによる若手のための将来イメージ創造講座」を行った。

グラフィクスアワードは最優秀賞1件、優秀賞1件、特別賞4件ずつ選考し、会期中の懇親会の席で表彰を行った。また、計4件のベストペーパーアワード表彰を行った。なお、詳細は別紙参照。

5. 講習会・講演会の開催

(1) サマースクール「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」を開催した。（東京、8月20～21日および9月11日）

(2) JSCES 学生サマーキャンプ2015を開催した。（つくば、9月19～20日）

JSCES 夏季学生講演会2015 優秀講演賞2件を選考し、サマーキャンプ開催中に表彰した。なお、詳細は別紙参照。

(3) 講習会「プログラムチューニング講習会 ～効率のよいプログラムを書くために～」を実施した。（東京、2016年1月15日）

6. 学会誌の編集と発行

(1) 学会誌「計算工学」第20巻2号～4号および第21巻1号を発行した。

(2) 学会設立20周年記念号を2016年1月に第21巻1号として発行した。

・竹内則雄元会長による第20回計算工学講演会記念講演の書き下ろし記事
・「計算工学の20年、これからの20年」と題する特集

・第1巻～20巻の学会誌の記事、第1回～第20回計算工学講演会の発表情報を含むDVD-ROMを同封

(3) 学会誌編集委員会を4回開催した。

(4) 学会誌刊行業者を、第21巻2号より学研教育アイ・シー・ティーから昭和情報プロセスに変更した。これに伴い、ウェブベースの原稿管理システムの利用により、投稿・校正などの手間の軽減が可能となった。また、編集委員会内部の役割分担・作業手順を見直した。

7. 論文集の発行

(1) 日本計算工学会論文集の投稿論文に関して、インターネットを用いた編集、発行を行った。

(2) 論文賞および論文奨励賞の推薦、審査、審査結果にもとづいた表彰委員会への推薦をおこなった。

(第1号議案)

8. 研究会の活動

2014年度に制定された研究会規約に基づいて、研究会の活動が実施された。

企画型研究会

- (1) ものづくりのための計算工学研究会
- (2) S&V (Simulation & Visualization) 研究会

公募型研究会

- (1) High Quality Computing (HQC) 研究会
- (2) PSE (問題解決環境) 研究会
- (3) 多元災害シミュレーション研究会
- (4) 不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会
- (5) ベンチマークデータ共有研究会
- (6) 計算工学教育に関する研究会

なお、詳細は別紙参照。

9. 会員活動

- (1) フェロー会員の公募、選考を行った。候補者を理事会に推薦し、3名のフェロー会員が承認された。
- (2) 名誉会員の称号を新たに1名に授与した。

10. 広報活動

- (1) ホームページ（和文、英文）の更新を行った。特に、20周年記念事業への対応や研究会のホームページ立ち上げに関して、業務委託している(株)ウェブマスターズとの会合を行った（2015年5月28日）。
- (2) ニュースレターの発信を行った。
- (3) 広報委員会を組織化し、規程ならびに内規を定めた（2015年9月7日 理事会制定）。

11. 国際交流活動

- (1) 国際交流関係のホームページの管理を行うとともに、その内容の見直しと充実を図った。
- (2) IACM との連携を行った。
 - ・ IACM EXPRESSIONS への投稿（5月、11月）
 - ・ IACM 関連会議（WCCM など）への協力と会員への広報
 - ・ 他国の IACM 支部および学協会との連携
- (3) 国際会議等の企画・開催を行った。
 - ・ JSCES と COSEIK（韓国）との共催による第7回韓日ワークショップ（2015年4月10日、釜山）を開催した。
 - ・ 計算工学講演会に特別講演者（René de Borst 教授 (University of Glasgow)）を招聘した。

(第1号議案)

- ・国際会議 IWACOM-III(2015年10月12-14日、東京)を開催した。
- ・JSCES と CIMNE (スペイン) との共催による第2回日西ワークショップ(2015年10月15日、東京)を開催した。
- ・WCCM XII & APCOM VI (2016年7月24-29日、ソウル)の企画・広報の支援を行った。

12. 他学協会との連携

- (1) 引き続き関連3学会(日本シミュレーション学会、日本応用数理学会)との交流を行い、「横断型基幹科学技術研究連合会」に参加、活動した。
- (2) 理論応用力学シンポジウム(日本学術会議主催)を共催した。
- (3) 安全工学シンポジウム2015(日本学術会議主催)を共催した。
- (4) 第5回計算力学シンポジウム(日本学術会議主催)を共催した。
- (5) HPCI コンソーシアムに正会員として参加し活動を行った。

13. 20周年記念事業

各委員会と連携し、以下の20周年記念事業を実施した。

- ・川井忠彦先生著書「新混合法による有限要素解析」の発刊(2015年5月30日刊行)、20周年出版記念講演会「計算固体力学の変遷と課題、今後の方向性」(2015年12月2日、東京)の実施
- ・記念式典、記念シンポジウム(第20回計算工学講演会、2015年6月8-10日、つくば)の開催
- ・IWACOM-IIIの開催(2015年10月12-14日、東京)
- ・「計算工学」20周年記念号の発行(Vol. 21, No. 1, 2016年1月末発行)
- ・アーカイブCDの製作・発行(「計算工学」Vol. 21, No. 1に添付)
- ・20周年記念 JSCES 若手育成・奨励寄付金の募集および運営

14. 寄付・基金

- ・庄子基金：庄子メダルの受賞費用等に充てた。
- ・川井基金：川井メダルの受賞費用等に充てた。
- ・20周年記念 JSCES 若手育成・奨励寄付金を募り、それを原資として20周年記念 JSCES スカラーシップアワード基金が設立された。

15. 財務

適切なガバナンスのもと、健全な財務運営を実施した。会費収入にもとづく会員向けサービス(非収益事業)の他、一部で収益事業も実施しているが(学会標準・CDROM販売、講演会展示ブースや学会誌掲載広告等に関する収入)、必要な販売費、一般管理費を考慮すると、納税は発生していない。

以上

(別紙)

4. 計算工学講演会関係

受賞者リスト

【グラフィックスアワード6件】

最優秀賞：

作品名：Disk-Gap-Band パラシュートの周囲流体場解析

講演論文題目：Disk-Gap-Band パラシュートの空気力学特性解析

著者：金井太郎、滝沢研二（早稲田大学）、Tayfun E. Tezduyar（Rice University）

優秀賞：

作品名：複数GPUを用いた気液分離装置のシミュレーション

講演論文題目：複数GPUを用いた気液分離装置のシミュレーション

著者：泉田康太、青木尊之、小野寺直幸、杉原健太（東京工業大学）、中島聖、本郷均、横畑英明（マツダ）

特別賞（MicroAVS賞）：

作品名：Google Earth 上での雲の写実表現

講演論文題目：Google Earth 上での雲の写実表現と防災への応用

著者：川原慎太郎、大西領（海洋研究開発機構）、後藤浩二（日本電気株式会社）、高橋桂子（海洋研究開発機構）

特別賞（MSC Apex賞）：

作品名：Disk-Gap-Band パラシュートの周囲流体場解析

講演論文題目：Disk-Gap-Band パラシュートの空気力学特性解析

著者：金井太郎、滝沢研二（早稲田大学）、Tayfun E. Tezduyar（Rice University）

特別賞（Meshman賞）：

作品名：土中の透水現象における土粒子スケールの渦構造の可視化

講演論文題目：埋め込み境界法を用いた固液連成解析による地盤材料のマイクロ透水挙動の再現

著者：橘一光、森口周二、高瀬慎介、寺田賢二郎（東北大学）

特別賞（ビジュアルコンピューティング賞）：

作品名：多数の瓦礫が漂流する大規模津波シミュレーション

講演論文題目：GPU スパコンにおける動的負荷分散を用いた大規模流体構造連成シミュレーション

著者：都築怜理、青木尊之（東京工業大学）

【ベストペーパーアワード4件】

題目：心臓有限要素解析に基づく薬剤の催不整脈リスク評価

著者：岡田純一（東京大）、吉永貴志（エーザイ）、黒川洵子（東京医科歯科大）、鷺尾巧（東京大）、古川哲史（東京医科歯科大）、澤田光平（エーザイ）、杉浦清了（東京大）、久田俊明

題目：MPS 粒子法を用いた静的熱弾塑性解析手法と溶接力学解析への適用に関する基礎的検討

著者：越智申久（JSOL）、望月正人（大阪大）

題目：変形により水面付近を遊泳・跳躍する魚型物体まわり流れの3次元CFD解析

著者：佐々木一真（横浜国立大）、白崎実

題目：微視構造を考慮した発泡樹脂の数値解析

著者：小塚祐也（アシックス）、野々川舞、西脇剛史、小林卓哉（メカニカルデザイン）、中西康雅（三重大）

5. 講習会・講演会の開催

受賞者リスト

【JSCES 夏季学生講演会 2015 優秀講演賞 2 件】

相馬 悠人（茨城大院）

損傷モデルと弾塑性モデルを用いた鉄筋コンクリートの破壊シミュレーション

久保 凱（筑波大院）

積層ずれを有する平織積層板のマクロ／マイクロ損傷進展解析

8. 研究会の活動

理事会の主導による「企画型研究会」と、広く会員から設置申請を募り 2014 年度に制定された研究会規約に則り運営される「公募型研究会」とが設置されている。

「企画型研究会」は、「S&V (Simulation & Visualization) 研究会」と「ものづくりのための計算工学研究会」の 2 つ、「公募型研究会」として、「High Quality Computing (HQC) 研究会」、「PSE (問題解決環境) 研究会」、「多元災害シミュレーション研究会」、「不確かさのモデリング・シミュレーション研究会」、「ベンチマークデータ共有研究会」、「計算工学教育に関する研究会」の 6 つの研究会が活動を行ってきた。

企画型研究会

(1) ものづくりのための計算工学研究会

7 月に実行体制として産学官からなる企画・運営メンバーを決定した。第 1 回の研究会を 11 月 26 日に開催した。ものづくりに計算工学を活かすための産側からの問題提起とパネル討論を行い、産学官連携の問題点や課題等、活発な議論が行われた。第 2 回研究会を 2016 年 1 月 19 日に開催し、アカデミア側からの問題提起とパネル討論を行い、研究会の方向性と出口に関する議論を行った。2016 年 3 月 31 日開催の第 3 回研究会では、第 1 回の産側、第 2 回の学側からの意見をベースに、来期からの研究会の具体的なロードマップと進め方を議論した。

(2) S&V (Simulation & Visualization) 研究会

計算工学の技術者、研究者、学生を対象として、新しいシミュレーション技術、ビジュアライゼーション技術、およびその周辺技術の最新の研究成果や技術について議論を行うことで、会員相互の技術力や知識の向上を目指して活動を行った。

公募型研究会

(1) High Quality Computing (HQC) 研究会

会合を3回実施した。第1回会合は6月29日にされ、研究会設立の経緯、委員の自己紹介、ASME V&V Conference 報告、計算工学講演会 V&V セッション報告および土木学会の動向、HQC002 発刊、に関する話題提供があった。10月19日に開催された第2回会合では、V&V 計算品質標準化実装システムとしてのSPDMの紹介およびMBDによる性能予測の課題と対策、Industrie 4.0: Siemens の取組み、JCOSSAR パネル討論および土木学会の活動状況、システムデザインの新たな潮流～システムズエンジニアリングの革新～、に関する話題提供があった。さらに、2016年2月に第3回会合を開催した。以上3回の会合を実施し、工学シミュレーションの品質等に関する最新の情報を紹介してきた。

(2) PSE (問題解決環境) 研究会

計算工学学会講演会においてオーガナイズドセッション「PSE/計算科学・教育」を開催した。さらに、第18回国際PSE(問題解決環境)ワークショップ2015を9月11日-12日にPalau Community College、Koror、Palauにて開催した。11件の発表があった。招待講演2件、一般講演10件の発表があった。第2回PSE研究会を2015年12月25日(金)、埼玉大学東京ステーションカレッジにて開催した。一般講演6件があり、システムバイオロジー研究の最近の動向、植物工場に関するPSE研究の進展状況が発表され議論を行った。以上のような活動に加え、ホームページとメーリングリストに加えて、“Computer Assisted Parallel program generation”, submitted (2014), Encyclopedia of Information Science and Technology, 4th Edition, IGI Global, Hershey, PA, USA. (arxiv.org/pdf/1503.04501)による広報活動を行っている。

(3) 多元災害シミュレーション研究会

7月3日に第1回研究会を開催し、現状の数値シミュレーション技術の成果や課題について議論するとともに、最新の立体可視化システムの実演を行った。10月27日に清水建設技術研究所にて第2回研究会を開催し、建設分野における最新の技術に関する見学会を行ったのち、構造解析および流体解析に関する現状の数値解析技術の課題について議論を行った。第3回目の研究会では津波防災分野の有川教授による特別講演会を実施した。さらに、第21回計算工学講演会で他の研究グループとの共催でOSを企画している。

(4) 不確かさのモデリング・シミュレーション法に関する研究会

2015年度は計4回の会合を行った。第1回～第3回会合が、7月15日、9月10日、11月13日に開催された。さらに、2016年2月23日にHigh Quality Computing 研究会と合同会合を開催した。自動車分野、航空・宇宙分野、土木・建築分野などにおける不確かさのモデリング・シミュレーション法に関連した講演、日本計算工学学会学会標準S-HQC001および002の解説に加えて、具体的な事例について深く議論するためにマルチスケール法および繊維強化プラスチック複合材料(FRP)の力学・シミュレーションに関する勉強会をシリーズで実施した。さらに、第21回計算工学講演会ではOS4を企画し、12件の発表申込を得たほか、WCCM2016にMS305を提案し、17件の発表申込を得た。

(5) ベンチマークデータ共有研究会

2015年度は以下の活動を行った。(1) 前身のグリーンCAE研究分科会の成果をベースにリ

ポジトリを更新した、(2) リポジトリのデータ構成を見直し、設定を更新した、(3) リポジトリのデータを充実化させるため、FrontISTR 研究会と協同して、データ提供の広報活動を行った。2015年度は第18回から第26回の計9回のFrontISTR研究会が開催されている。

(6) 計算工学教育に関する研究会

8月に発足し活動を開始した。8月26日に開催された第1回会議にて、基本方針の確認と活動計画について議論を行った。第2回会議は10月23日に開催し、カリキュラムの考え方などについて議論を行い、さらに11月25日に行われた第3回会議では全体構成や汎用コードの分析結果の議論について議論をした。2016年1月13日開催の第4回会合ではカリキュラムの具体的試案などについての議論、3月14日開催の第5回会合ではヒアリング結果の報告、講演論文内容の審議、さらに次年度の件に関する議論を行った。

【第2号議案】

2015年度

決算報告書

自 2015年4月 1日

至 2016年3月31日

税務監査報告書

貸借対照表

損益計算書

キャッシュフロー計算書

財産目録

【参考資料】

- 1.収支決算参考資料
- 2.会員数・決算経緯グラフ

(第2号議案)

一般社団法人 日本計算工学会
代表理事 越塚 誠一様

2015 年度 税務監査報告書

2015 年度の会計につき税務監査の結果を以下の通りご報告いたします。

年 度：第 6 期、自 2015 年 4 月 1 日至 2016 年 3 月 31 日

実施日：2016 年 4 月 19 日(火)

方 法：下期決算収支明細報告書、試算表、2 期比較貸借対照表及び損益計算書、部門別総括表の資料を基に前年対比の推移も含め検証を行った。

意 見：

1. 前年対比の特徴

会費収入はほぼ前年対比と同水準で大きな変動はありません。

特に当期は 20 周年記念事業である IWACOM-III に関する収入及び支出があり、収入では約 970 万円、支出では約 920 万円計上されています。

2. IWACOM-III (20 周年記念) について

会期前の予算案から収支のバランスを考えた結果、学会からの補填を防ぐため助成金を申請し、249 万円の助成金を受け寄付金収入としています。

3. その他

領収書や請求書などの原始資料が月別かつ日毎に整理されており、日々の金銭による収支は複式簿記により適切に処理されています。

2016 年 5 月 11 日(水)
税理士法人 芝田会計事務所
代表社員税理士 福田 和康
税理士補助 佐竹 美穂
東京都世田谷区駒沢 1 丁目 17 番 17 号
真成ビル 8F
TEL03-3412-9515



貸借対照表

一般社団法人 日本計算工学会

2016年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
【流動資産】	39,957,786	40,792,471	-834,685
現金預金	39,750,486	38,564,120	1,186,366
前渡金	-	116,351	-116,351
立替金	-	-	-
未収入金	207,300	112,000	95,300
仮払金	-	2,000,000	-2,000,000
資産の部計	39,957,786	40,792,471	-834,685
II 負債の部			
【流動負債】	5,991,964	7,293,554	-1,301,590
未払金	-	-	-
前受金	4,310,000	3,612,000	698,000
仮受金	1,589,584	3,589,584	-2,000,000
預り金	22,380	21,970	410
従業員預り金・未払法人税	70,000	70,000	-
負債の部計	5,991,964	7,293,554	-1,301,590
III 純資産の部			
【繰越金】	33,965,822	33,498,917	466,905
繰越剰余金	33,965,822	33,498,917	466,905
(うち当期純利益)	466,905	-	466,905
純資産の部計	33,965,822	33,498,917	466,905
負債及び純資産の部計	39,957,786	40,792,471	-834,685

損益計算書

一般社団法人 日本計算工学会

自 2015年4月 1日
至 2016年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
【売上高】	37,791,600	28,603,333	9,188,267
会費収入	13,513,000	13,559,000	-46,000
研究分科会会費	-	-	-
受託研究費	-	-	-
論文掲載料	630,000	540,000	90,000
会誌広告料	1,647,000	1,895,400	-248,400
講演会開催費	7,800,540	7,852,812	-52,272
寄付金(川井基金)	-	500,000	-500,000
寄付金(庄子基金)	-	-	-
寄付金(フェロー基金)	-	60,000	-60,000
寄付金(20周年若手育成基金)	420,000	350,000	70,000
助成金(IWACOM-Ⅲ)	2,490,000	-	2,490,000
IWACOM-Ⅲ開催費	7,205,000	-	7,205,000
講習会費	3,279,000	2,738,752	540,248
研究会費	764,000	785,500	-21,500
その他売上高	43,060	321,869	-278,809
売上総利益	37,791,600	28,603,333	9,188,267
【販売費及び一般管理費】	37,826,898	28,409,535	9,417,363
研究分科会活動費	-	-	-
受託研究費	-	-	-
講演会開催費	6,372,784	6,928,350	-555,566
講習会費	1,812,015	1,617,139	194,876
研究会費	192,020	648,959	-456,939
会誌発行費	6,040,302	6,081,048	-40,746
論文発行費	138,840	146,334	-7,494
IACM関係費	1,093,840	926,940	166,900
ホームページ管理費	743,040	496,800	246,240
学協会関係費	289,775	394,173	-104,398
会議費	4,750	7,560	-2,810
会員システム管理費	388,800	388,800	-
総会関係費	255,370	322,983	-67,613
特別講演費	351,112	364,130	-13,018
国際会議運営費	-	-	-
学会表彰費	208,872	196,776	12,096
20周年記念経費	1,589,741	-	1,589,741
IWACOM-Ⅲ開催費	9,220,434	-	9,220,434
通信費	376,716	415,561	-38,845
印刷費	385,618	361,291	24,327
人件費	4,713,705	4,579,086	134,619
法定福利費	693,999	597,028	96,971
通勤交通費	323,359	328,205	-4,846
什器・備品費	34,096	19,440	14,656
光熱費	176,410	89,480	86,930
消耗品費	148,710	132,471	16,239
事務所賃料	1,555,200	1,473,624	81,576
保険料(火災保険)	-	20,000	-20,000
選挙費	204,618	1,330	203,288
未納会費処理損	-	-	-
租税公課	1,000	4,700	-3,700
雑費	133,772	227,230	-93,458
雑費(事務所移転関係費)	-	1,158,072	-1,158,072
学会運営費	378,000	482,025	-104,025
営業利益	-35,298	193,798	-229,096
【営業外収益】	573,145	144,804	428,341
受取利息	4,705	4,037	668
雑収入	568,440	140,767	427,673
経常利益	537,847	338,602	199,245
税引前当期純利益	537,847	338,602	199,245
法人税・住民税・事業税	70,942	70,808	134
当期純利益	466,905	267,794	199,111

キャッシュフロー計算書

一般社団法人 日本計算工学会

自 2015年4月 1日
至 2016年3月31日

(単位:円)

科目	当年度
【事業活動によるキャッシュ・フロー】	
税金等調整前当期純利益	537,847
受取利息	-4,705
前渡金の増加額	116,351
立替金の増加額	-
未収入金の増加額	-95,300
仮払金の増加額	2,000,000
未払金の増加額	-
前受金の増加額	698,000
仮受金の増加額	-2,000,000
預り金の増加額	410
小計	714,756
利息の受取額	4,705
法人税等の支払額	-70,942
事業活動によるキャッシュ・フロー	1,186,366
【投資活動によるキャッシュ・フロー】	
投資活動によるキャッシュ・フロー	-
【財務活動によるキャッシュ・フロー】	
財務活動によるキャッシュ・フロー	-
【現金及び現金同等物の増減】	
現金及び現金同等物の増加額	1,186,366
現金及び現金同等物期首残高	38,564,120
現金及び現金同等物期末残高	39,750,486

財 産 目 録

一般社団法人 日本計算工学会

2016年3月31日現在

I. 資産

(単位:円)

種類	細 目	金額
現金	事務局	13,112
	委託研究	0
預金	みずほ銀行根津支店普通預金No.1109931	2,239,185
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1109958	1,077,040
	三菱東京UFJ銀行本郷支店普通預金No.0052024	2,009,441
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1115419	722,407
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1117004	13,568,179
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1172382	474,979
	みずほ銀行根津支店普通預金No.1174520	770,089
	ゆうちょ銀行振替口座No.00170-1-662808	18,849,118
	ゆうちょ銀行通常郵便貯金No.10120-76374261	26,936
		合計

種類	細 目			金額	
未収入金	個人会員	正会員	9名	72,000	※2015年度分
		論文掲載料	No.20160006	1件	
	広告掲載料	Vol.21No.1	1件	105,300	
		合計		207,300	

II. 負債

種類	細 目			金額	
前受金	特別会員	B級	3社	300,000	※内3名:学→正 移行者含む(4,000)
		C級	14社	700,000	
	個人会員	正会員フェロー	5名	60,000	
		正会員	389名	3,100,000	
		シニア会員	30名	120,000	
		学生会員	15名	30,000	
	合計		4,310,000		

種類	細 目	金額
仮受金	COMPSAFE2014余剰金	1,589,584
	合計	1,589,584

種類	細 目	金額
預り金	給料天引き源泉所得税1~3月分	22,380
	合計	22,380

種類	細 目	金額
未払法人税等	2015年度分法人住民税	70,000
	合計	70,000

2015年度 収支決算参考資料 *1

一般社団法人 日本計算工学会

自 2015年4月 1日
至 2016年3月31日

【収入の部】 (単位:円。ただし備考欄は万円)

Table with columns: 項目, 2014年度決算, 2015年度 (予算, 決算, 前年度比, 予算比), 備考. Rows include 会費収入, 研究分科会会費, 受託研究費, 論文掲載料, 会誌広告料, 講演会開催費, 寄付金, 講習会費, 研究会費, etc.

【支出の部】 (単位:円)

Table with columns: 項目, 2014年度決算, 2015年度 (予算, 決算, 前年度比, 予算比), 備考. Rows include 事業活動費, 研究分科会活動費, 受託研究費, 講演会開催費, 講習会費, 研究会費, 会誌発行費, 論文発行費, etc.

Summary table with columns: 項目, 2014年度決算, 2015年度 (予算, 決算, 前年度比, 予算比), 備考. Rows include 単年度収支.

◆積立金状況 *2

国際会議積立金

【収入の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
積立準備金	356	0	368	12	368	利息368
前年度繰越金	2,238,098	2,238,454	2,238,454	356	0	
合計	2,238,454	2,238,454	2,238,822	368	368	

【支出の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
取り崩し金	0	0	0	0	0	
今年度繰越金	2,238,454	2,238,454	2,238,822	368	368	
合計	2,238,454	2,238,454	2,238,822	368	368	

20周年記念積立金

【収入の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
積立準備金	500,000	500,000	500,000	0	0	
前年度繰越金	500,000	1,500,000	1,500,000	1,000,000	0	
合計	1,000,000	2,000,000	2,000,000	1,000,000	0	

【支出の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
取り崩し金	0	2,000,000	2,000,000	2,000,000	0	
今年度繰越金	1,000,000	0	0	▲ 1,000,000	0	
合計	1,000,000	2,000,000	2,000,000	1,000,000	0	

◆基金状況 *2

川井基金

【収入の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
積立金	0	0	0	0	0	
前年度繰越金	0	500,000	500,000	500,000	0	
合計	0	500,000	500,000	500,000	0	

【支出の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
取り崩し金	0	20,000	16,308	16,308	▲ 3,692	川井メダル作成費
今年度繰越金	0	0	483,692	483,692	483,692	
合計	0	500,000	500,000	500,000	0	

庄子基金

【収入の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
積立金	500,081	0	121	▲ 499,960	121	利息121
前年度繰越金	560,973	803,594	762,734	201,761	▲ 40,860	
合計	1,061,054	803,594	762,855	▲ 298,199	▲ 40,739	

【支出の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
取り崩し金	257,460	40,000	40,448	▲ 217,012	448	庄子メダル作成費(1.9)、サマーキャンプ(2.1)
今年度繰越金	803,594	763,594	722,407	▲ 81,187	▲ 41,187	
合計	1,061,054	803,594	762,855	▲ 298,199	▲ 40,739	

フェロー基金

【収入の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
積立金	0	0	0	0	0	
前年度繰越金	0	0	60,000	60,000	60,000	
合計	0	0	60,000	60,000	60,000	

【支出の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
取り崩し金	0	0	0	0	0	
今年度繰越金	0	0	60,000	60,000	60,000	
合計	0	0	60,000	60,000	60,000	

20周年記念JSCES スカラシップアワード基金

【収入の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
積立金	0	650,000	420,088	420,088	▲ 229,912	84口、利息88
前年度繰越金	0	350,000	350,000	350,000	0	
合計	0	1,000,000	770,088	770,088	▲ 229,912	

【支出の部】 (単位:円)

項目	2014年度 決算	2015年度				備考
		予算	決算	前年度比	予算比	
取り崩し金	0	200,000	0	0	▲ 200,000	
今年度繰越金	0	800,000	770,088	770,088	▲ 29,912	
合計	0	1,000,000	770,088	770,088	▲ 229,912	

*2: これらの「積み立て金」、「基金」は会計上は計算工学会決算の繰り越し金(2015年度は33,983,321円)の中に含まれます。
会計上、別の基金があるわけではありません。繰越金の一部を、内部的に別の項目を設けて、管理し、その年度毎の推移を記載しています。

2015年度 会員推移

一般社団法人 日本計算工学会

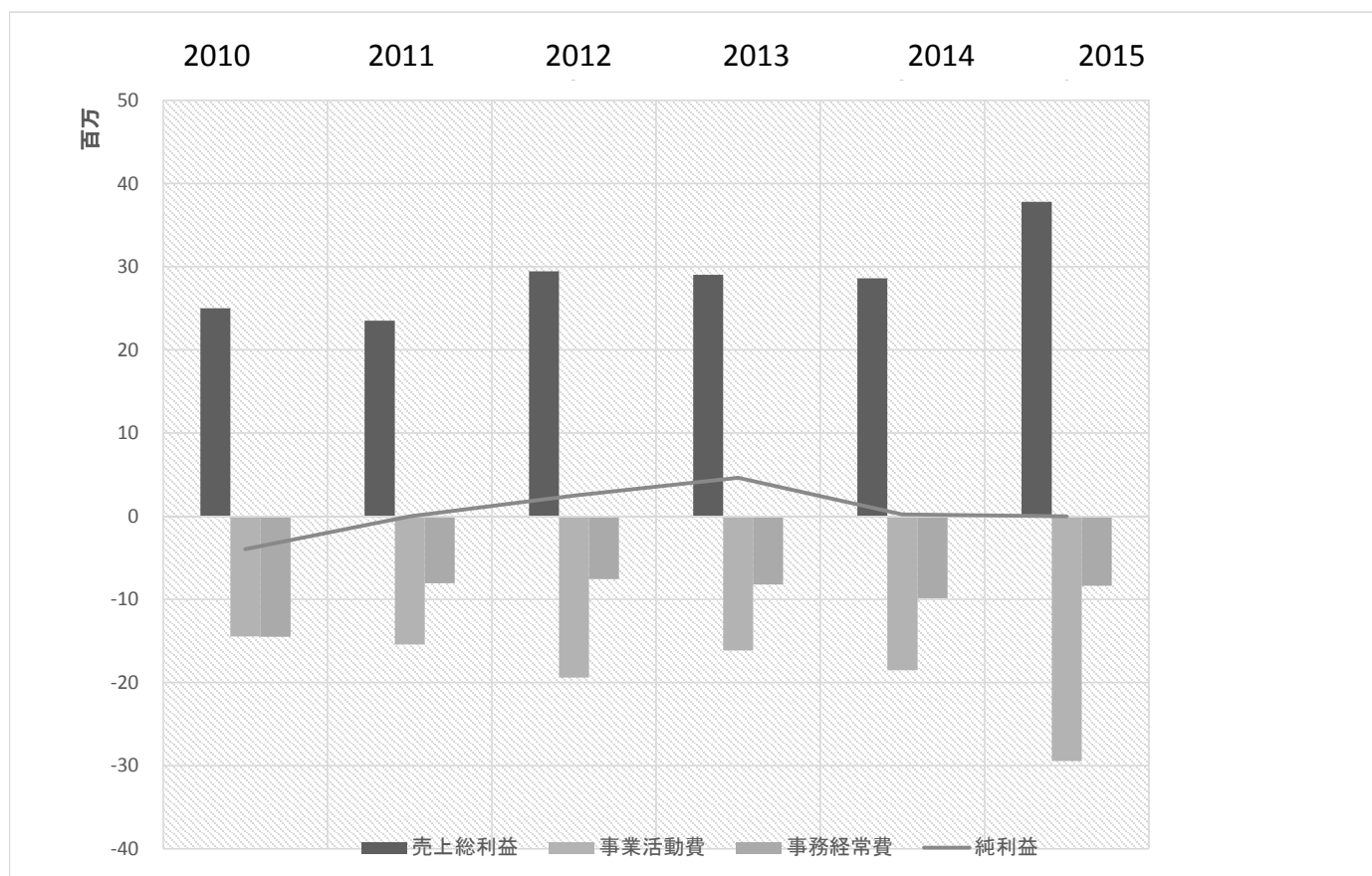
2016年3月31日現在

	特別会員			正会員	シニア会員	学生会員	研究室会員
	A級	B級	C級				
2010年度	10	11	40	832	12	63	53 (9件)
2011年度	10	10	49	842	14	50	64 (11件)
2012年度	10	9	58	853	18	49	68 (11件)
2013年度	11	9	61	861	31	48	77 (13件)
2014年度	11	9	60	875	34	49	77 (14件)
2015年度	11	9	60	871	43	46	85 (13件)

2015年度 決算経緯グラフ

一般社団法人 日本計算工学会

2016年3月31日現在



【第3号議案】

2015年度

監 査 報 告 書

自 2015年4月 1日

至 2016年3月31日

(第3号議案)

監 査 報 告

私達監事は、2015年4月1日から2016年3月31日までの
第6期事業年度の貸借対照表、損益計算書、事業報告および
附属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを
認めます。

2016年 5月 17日

監

事 榎山 和男



山村 和



報 告 書

前記のとおりご報告申し上げます。

2016年 5月 27日

一般社団法人 日本計算工学会

会

長 越塚 誠



【第4号議案】

2016・2017年度

役員選任の件（案）

理事・監事候補者名簿

【参考資料】

- 1.選挙結果
- 2.代表会員名簿

2016・2017年度 役員選任の件(案)

【 理事・監事候補者名簿 】

会 長(理事)	寺田 賢二郎	東北大学	災害科学国際研究所	教授
副会長(理事)	梅津 康義	(株)JSOL	エンジニアリング本部開発部	部長
副会長(理事)	山田 貴博	横浜国立大学	大学院 環境情報研究院	教授
理 事	磯部 大吾郎	筑波大学	システム情報系 構造エネルギー工学域	教授
理 事	岡澤 重信	山梨大学	大学院総合研究部 工学域 機械工学系	教授
理 事	小林 卓哉	(株)メカニカルデザイン		代表取締役
理 事	櫻井 英行	清水建設(株)	技術研究所 社会システム技術センター 先進解析グループ	グループ長
理 事	塩谷 隆二	東洋大学	総合情報学部	教授
理 事	中島 研吾	東京大学情報基盤センター	スーパーコンピュータリテイング研究部門	教授
理 事	長嶋 利夫	上智大学	理工学部 機能創造理工学科	教授
理 事	永野 勝尋	みずほ情報総研(株)	サイエンスソリューション部	シニアマネージャー
理 事	西脇 眞二	京都大学大学院	工学研究科 機械理工学専攻	教授
理 事	萩原 世也	佐賀大学	工学系研究科・機械システム工学専攻	教授
理 事	長谷川 浩志	芝浦工業大学	システム理工学部 機械制御システム学科	教授
理 事	藤川 智士	マツダ(株)	パートレイン開発本部	主査
理 事	藤崎 正英	富士通(株)	TCソリューション事業本部	VP
理 事	松本 純一	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	機能材料コンピュータシミュレーションデザイン研究センター	研究チーム長
理 事	宮地 英生	東京都市大学	メディア情報学部 情報システム科	教授
理 事	山崎 伯公	新日鐵住金(株)	設備・保全技術センター 機械技術部	室長
理 事	渡邊 浩志	エムエスシーソフトウェア株式会社	テクニカルサポート部	シニアアプリケーションエンジニア
監 事	越塚 誠一	東京大学大学院	工学系研究科 システム創成学専攻	教授
監 事	佐々木 直哉	(株)日立製作所	研究開発グループ	技師長

■2016・2017年度 代表会員・理事役員選挙結果

【投票結果】

◆代表会員選挙

◎有効投票数	451
信認票	448
否認票	3

◆理事・役員選挙


◎有効投票数	451
信認票	448
否認票	3

(特別会員:81、正会員:875 合計956 ※1/5で有効 192以上)

◆2016/3/10

選挙管理委員会により、投票結果の判定を行い、有効に成立と承認。

選挙管理委員長

竹内剛雄 

2016・2017年度

【 代表会員名簿 】

	氏名	所属						
1	秋葉 博	東京大学地震研究所	35	紅露 一寛	新潟大学	69	中曾根 祐司	東京理科大学
2	浅井 光輝	九州大学大学院	36	越塚 誠一	東京大学	70	永野 勝尋	みずほ情報総研
3	畔上 秀幸	名古屋大学	37	越村 俊一	東北大学	71	西村 直志	京都大学
4	石井 恵三	くいんと	38	小林 卓哉	メカニカルデザイン	72	西脇 眞二	京都大学
5	石田 智裕	サイバネットシステム	39	近藤 晶子	Caemarketing	73	野島 和也	日本工営
6	磯部 大吾郎	筑波大学	40	近藤 典夫	日本大学	74	野村 卓史	日本大学
7	市村 強	東京大学地震研究所	41	酒井 幹夫	東京大学	75	萩原 世也	佐賀大学
8	井上 裕嗣	東京工業大学	42	阪田 升	環境シミュレーション	76	萩原 一郎	明治大学
9	岩井 信弘	ボッシュ	43	櫻井 英行	清水建設	77	橋本 学	東京大学
10	牛島 省	京都大学	44	佐々木 直哉	日立製作所	78	長谷川 浩志	芝浦工業大学
11	梅津 康義	J SOL	45	定岡 紀行	日立製作所	79	早勢 欣和	富山高等専門学校
12	生出 佳	メカニカルデザイン	46	沢田 龍作	サワダ技研	80	姫野 龍太郎	理化学研究所
13	大崎 純	京都大学	47	塩谷 隆二	東洋大学	81	廣瀬 壯一	東京工業大学
14	大富 浩一	東京大学	48	白崎 実	横浜国立大学	82	藤川 智士	マツダ
15	大西 有三	京都大学	49	白山 晋	東京大学	83	藤崎 正英	富士通
16	大林 茂	東北大学	50	鈴木 克幸	東京大学	84	藤澤 智光	プロメテックソフトウェア
17	岡澤 重信	山梨大学	51	高垣 昌和	鉄道総合研究所	85	別府 万寿博	防衛大学校
18	岡田 裕	東京理科大学	52	高木 敏行	東北大学	86	前田 朝樹	I H I
19	奥田 洋司	東京大学	53	高野 直樹	慶應義塾大学	87	松井 和己	横浜国立大学
20	奥田 基	高度情報科学技術研究機構	54	高橋 昭如	東京理科大学	88	松田 哲也	筑波大学
21	奥村 大	大阪大学	55	高橋 由紀夫	電力中央研究所	89	松本 純一	産業技術総合研究所
22	小野 謙二	理化学研究所	56	高原 浩志	日本電気	90	松本 正己	米子工業高等専門学校
23	檜山 和男	中央大学	57	田上 大助	九州大学	91	宮地 英生	東京都市大学
24	加藤 準治	東北大学	58	只野 裕一	佐賀大学	92	本山 恵一	米国ミシシッピ州立大学
25	亀山 隆	日本電気	59	田中 聖三	筑波大学	93	森口 周二	東北大学
26	河合 浩志	諏訪東京理科大学	60	田中 伸厚	茨城大学	94	山崎 伯公	新日鐵住金
27	川口 健一	東京大学	61	月野 誠	くいんと	95	山田 貴博	横浜国立大学
28	川田 重夫	宇都宮大学	62	坪田 健一	千葉大学	96	山村 和人	新日鐵住金
29	菊地 脛	数値解析開発	63	手塚 明	産業技術総合研究所	97	山本 誠	東京理科大学
30	北 栄輔	名古屋大学	64	寺田 賢二郎	東北大学	98	弓削 康平	成蹊大学
31	北村 隆行	京都大学	65	寺元 貴幸	津山工業高等専門学校	99	吉村 忍	東京大学
32	北村 充	広島大学	66	永井 学志	岐阜大学	100	和田 義孝	近畿大学
33	清末 考範	新日鐵住金	67	中島 研吾	東京大学情報基盤センター	101	渡邊 浩志	エムエスシーソフトウェア
34	車谷 麻緒	茨城大学	68	長嶋 利夫	上智大学			計 101 名

【第 5 号議案】

2016 年度

事業計画（案）

自 2016 年 4 月 1 日

至 2017 年 3 月 31 日

活動方針

日本計算工学会は、計算工学・計算力学に関する学術研究の発展・進展を希求する我が国唯一の団体として国内外に認知されており、昨年度(2015年度)には学会設立20周年を迎えた。今期は、20年間の学会活動の実績をもとに計算工学のさらなる発展と産官学の連携強化を図ることはもとより、学術的深化と産業利用の高度化のための会員活動の活性化を促進するとともに、それらの相乗効果を生み出す新たな体制作りを模索する。また、我が国における計算工学分野の将来のさらなる発展のために長期的な視点で人材育成活動や国際交流活動の拡充を図る。そこで今期の活動方針として

『計算工学の学術的深化と産業利用の高度化のための会員活動の活性化を促進し、それらの相乗効果を生み出す新たな体制作りを模索するとともに、人材育成活動や国際交流活動の拡充を図る。』2016年度は、この方針のもとに以下の活動を推進する。

(1) 計算工学の学術的深化と産業利用の高度化のための会員活動の活性化の促進

定例の計算工学講演会の開催、および会誌・論文集の発行はもとより、2014年度に新たに発足した研究会等の活動を通して、計算工学の学術的深化を図り、その成果が国際的にも認知されるよう務める。また、研究会等を通して計算工学の産業利用を促進するとともに、新しい技術に関する情報交換を積極的に行う。そして、他学協会との連携や協働によって社会的にも存在感のある学会となるように務める。

(2) 相乗効果を生み出す体制作り

計算工学における学術的シーズと産業ニーズのマッチングの重要性を認識し、それらの相乗効果を生むための新たな体制や事業について検討する。

(3) 人材育成活動の拡充

学生や企業における若手研究者および技術者が、計算工学分野に魅力を感じてもらえるような人材育成事業を積極的に推進する。具体的には、計算工学講演会、研究会、サマーキャンプ、講習会などの事業への参加を促すとともに、表彰事業を通じて計算工学の学術研究および技術開発を奨励する。

(4) 国際交流活動の拡充

WCCMに限らず、IACMが主催する様々な国際会議・セミナーの広報活動を強化し、会員の積極的な参加を促す。また、英文ホームページの内容を充実するなどして、本学会の活動を広く海外に発信することに努める。

(5) 健全な財政運営

消費税の増税や物価の上昇など経済的環境は厳しさを増していることを踏まえ、健全な財政運営となるよう節約を心がける。特に、会員・広報事業の活性化により、日本計算工学会の会員数の更なる増員を目指す。

1. 定時社員総会の開催

2016年度定時社員総会を、2016年5月27日に、東京大学武田ホールにて開催する。

2. 理事会の開催

2016年度の理事会は、計7回の開催を予定している。

規程類の整備を完了させ、担当理事の役割と責任を明確化する。

3. 表彰

学会賞などの表彰制度の運用については、表彰委員会にて審査し、2016年度の該当者選考を行う。

(第5号議案)

4. 計算工学講演会関係

第21回計算工学講演会を、2016年5月31日より6月2日まで朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）において開催する。30件のOSに対して310件を超える一般講演が予定されている。これらの講演原稿を収録したCD-ROM版計算工学講演会論文集Vol.21を発刊予定である。この論文集においては、講演原稿だけでなくビデオ・アニメーションの添付も可能としている。講演会において榎本利章氏（ナミックス）による特別講演を行い、シンポジウムやランチョンセミナーさらに学生向け特別企画を行う。また例年通りグラフィクスアワードおよびベストペーパーアワードの表彰も予定している。

5. 講習会・講演会の開催

本学会の活動の成果発信の場として講習会・講演会を定期的に開催する。

- (1) 出版活動成果をより広く発信する場として、計算力学レクチャーコースをテキストとした「講習会」を計画する。
- (2) サマースクール「非線形有限要素法による弾塑性解析の理論と実践」を開催する。
- (3) 学生向けセミナーとして「サマーキャンプ」を開催する。
- (4) 計算工学の学術的深化と産業利用の高度化に関する様々なセミナーの開催を検討する。

6. 学会誌の編集と発行

- (1) 学会誌「計算工学」第21巻2号～4号および第22巻1号を発行する。
- (2) 学会誌編集委員会を実施する。
- (3) 編集委員会内部の役割分担、作業手順に関する検討を継続して実施し、結果を成文化する。

7. 論文集の発行

- (1) インターネットを通じた論文集の編集、発行作業を引き続き行う。
- (2) 論文部会を開催して、論文賞および論文奨励賞の推薦、審査、審査結果にもとづき、表彰委員会への推薦をおこなう。

8. 研究会および研究分科会の活動

2014年度に策定した研究会規約に基づき研究会・研究分科会の募集を継続する。また、2つの「企画型研究会」と6つの「公募型研究会」を継続する。

9. 学会刊行物の企画、刊行

次期の計算力学レクチャーコースの書籍として3冊以上の出版を企画する。

10. 会員活動

- (1) 会員増強と会員サービスのさらなる向上を目指す。
- (2) フェロー会員の公募、選考を行う。
- (3) 名誉会員の推薦を行う。
- (4) 名誉会員の推薦基準およびフェロー会員から名誉会員への移行に関して検討を行う。

(第5号議案)

11. 広報活動

- (1) 定期的なホームページの更新に加え、各種規程の掲載を検討する。また、情報セキュリティの管理体制の維持につとめる。
- (2) ニュースレターの発信を行う。
- (3) 広報委員会の活動を活発化し、会員へのサービス向上ならびに広く学会活動の周知に務める。
- (4) 学会ホームページの変更を検討する。

12. 国際交流活動

- (1) 英文ホームページの管理を行うとともに、その内容を見直し、充実させることで、本学会の活動を広く海外へ発信する。
- (2) IACM との連携を維持する。
 - ・ IACM EXPRESSIONS への投稿 (5月、11月)
 - ・ IACM 関連会議(WCCM など) への協力と会員への広報
 - ・ 他国の IACM 支部および学協会との連携
- (3) 国際会議等を企画・開催・支援する。
 - ・ WCCM XII & APCOM VI (2016年7月24-29日、ソウル) の企画・広報を支援する。
 - ・ COMPSAFE 2017 (2017年10月15~19日、西都) の企画・広報を支援する。

13. 他学協会との連携

- (1) HPCI コンソーシアムに正会員として運営に参加する。
- (2) 引き続き関連3学会(日本シミュレーション学会、日本応用数理学会)との交流を行うとともに、「横断型基幹科学技術研究連合会」に参加、活動する。
- (3) 日本学術会議 安全工学シンポジウムの運営に参加する。
- (4) 日本学術会議 理論応用力学講演会の運営に参加する。
- (5) 日本学術会議 計算力学シンポジウムの運営に参加する。

14. 寄付・基金

- (1) 庄子基金：庄子メダルの受賞者用等に充てる。
- (2) 川井基金：川井メダルの受賞者用等に充てる。
- (3) 20周年記念 JSCES スカラーシップアワード基金およびフェロー基金：若手育成のためのスカラーシップアワードの受賞者用等に充てる。

15. 技術者倫理

- (1) 技術者倫理を重視し、倫理綱領に沿った学会活動を行う。
- (2) 倫理委員会規程を策定し、倫理綱領の周知・啓発・運用を推進する。

16. 健全な運営

適切なガバナンスのもと、会の収支・損益、資産面など健全な財務運営の継続に努める。収益事業と非収益事業(会費収入に対する会員向けサービスなど)を明確化し、収益事業に対しては税務申告を行う。

以上

【第 6 号議案】

2016 年度

事業予算（案）

自 2016 年 4 月 1 日

至 2017 年 3 月 31 日

2016年度 事業予算(案)

一般社団法人 日本計算工学会

自:2016年4月1日

至:2017年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

項 目	2016年度予算案	備 考
会費	13,000,000	2016年度年会費
研究会受託研究費	0	
論文掲載料	600,000	インターネット論文掲載
会誌広告料	1,800,000	会誌への広告掲載
講演会参加費	6,000,000	第21回講演会開催費等
講習会費	3,000,000	直轄委員会にて講習会等企画(サマースクール、サマーキャンプ、レクチャーコース等)
研究会費	500,000	HQC、PSE、多元災害、不確かさ、ベンチマーク、S&V、ものづくり、計算工学教育
その他	100,000	会誌別購入
雑収入	0	
計	25,000,000	
国際会議積立金取崩	0	
川井基金取崩	20,000	川井メダル作成費
庄子基金取崩	40,000	庄子メダル作成費、若手育成費用
フェロー基金取崩	0	
20周年記念JSCESスカラシップアワード基金取崩	200,000	20周年記念JSCESスカラシップアワード(2016年)副賞
収入計	25,260,000	

【支出の部】

項 目	2016年度予算案	備 考
事業活動費	16,050,000	
研究会活動費	0	
講演会開催費	5,800,000	第21回講演会開催費
講習会費	2,000,000	講習会開催費
研究会費	150,000	HQC、PSE、多元災害、不確かさ、ベンチマーク、S&V、ものづくり、計算工学教育
会誌発行費	3,300,000	会誌印刷費(広告掲載費含む)、発送費・掲載謝礼金(図書カード)、会議費
論文発行費	120,000	査読謝礼金(図書カード)9万、J-stage使用料3万
IACM関係費	1,000,000	IACM会費、送金手数料
ホームページ管理費	1,400,000	WEB保守費、HP改変、英文修正等
学協会関係費	300,000	HPCIコンソーシアム20万、横断型基幹科学技術会費5万、共催分担金3万、他会費2万
会議費	50,000	
会員システム管理費	390,000	会員システム管理費
総会関係費	350,000	案内状、会場費、懇親会費、講師謝礼等
特別講演費	0	計算工学大賞受賞者招聘費
国際会議運営費	0	
学会賞表彰費	220,000	総会時表彰(川井メダルと庄子メダルを含む)
通信費	420,000	電話代、フレッツ光代、宅配便代、レターパック代、切手代、年会費請求書発送費
印刷費	350,000	コピー機リース、コピーカウント代
若手育成費	200,000	20周年記念JSCESスカラシップアワード(2016年)副賞
事務経常費	8,380,000	
人件費	5,000,000	事務局
法定福利費	720,000	事務局(厚生年金・健康保険・労働保険料・雇用保険)
通勤交通費	320,000	事務局
什器・備品費	200,000	会計ソフト保守費、PC購入費
光熱費	200,000	電気、ガス、水道
消耗品費	150,000	事務局備品
事務所賃料	1,558,000	事務局賃料
選挙費	0	
租税公課	70,000	法人住民税
雑費	132,000	三菱東京UFJ・みずほWEB利用料、WEB・ATM振込手数料、貸金庫利用料 等
※予備費	30,000	
学会運営費	830,000	会計事務所(含む登記)
計	25,260,000	
国際会議積立金	0	
川井基金積立金	0	
庄子基金積立金	0	
フェロー基金積立金	0	
20周年記念JSCESスカラシップアワード基金積立金	0	
支出計	25,260,000	
収支増減(純利益)	0	

◆積立金状況
国際会議積立金
【収入の部】

項目	2016年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	2,238,454	
合計	2,238,454	

【支出の部】

項目	2016年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	2,238,454	
合計	2,238,454	

◆基金状況
川井基金
【収入の部】

項目	2016年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	483,692	
合計	483,692	

【支出の部】

項目	2016年度予算案	
取り崩し金	20,000	川井メダル作成費
今年度繰越金	463,692	
合計	483,692	

庄子基金
【収入の部】

項目	2016年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	722,407	
合計	722,407	

【支出の部】

項目	2016年度予算案	
取り崩し金	40,000	庄子メダル作成費、若手育成費用
今年度繰越金	682,407	
合計	722,407	

フェロー基金
【収入の部】

項目	2016年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	60,000	
合計	60,000	

【支出の部】

項目	2016年度予算案	
取り崩し金	0	
今年度繰越金	60,000	
合計	60,000	

20周年記念JSCESスカラーシップアワード基金積立金

【収入の部】

項目	2016年度予算案	
積立金	0	
前年度繰越金	770,089	
合計	770,089	

【支出の部】

項目	2016年度予算案	
取り崩し金	200,000	20周年記念JSCESスカラーシップアワード(2016年)
今年度繰越金	570,089	
合計	770,089	